



DOWA
CSR REPORT 2007
CSR報告書2007

DOWAの社会的責任とは？

未踏の領域への挑戦

新生 DOWA としての船出

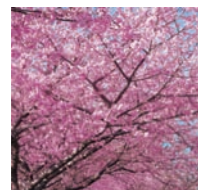
吉川
昨年度は、私たち DOWA グループにとってまさに「未踏の領域へ挑戦」し始めた、大変目まぐるしい1年でした。ハードルの高い経営目標を掲げた事業構造改革Ⅲ「Jump up to the New Stage」のスタートの年であり、また持株会社制への移行と、あわせて永年慣れ親しんだ「同和鉱業」の社名を「DOWA ホールディングス」にするという大きな組織変更も実施いたしました。「新生・DOWA」として実質的には今年度が、まさに本格始動の年にあたります。

河野
今年は、「現場」と「人材」を重点テーマとして掲げ、5つの事業会社それぞれを強く育てていくことにこだわっていきたくと考えています。どちらも DOWA グループの収益を生み出す原動力であり、真のエクセレント・カンパニーを目指すためには抜本的な改革・強化が不可欠です。昨年度はメタル価格の高騰等の追い風もあり過去最高益を達成できましたが、気を緩めることなく、グループ一丸となって一層高いレベルを目指していきます。

吉川
社外に目を向けると、好景気や市場のグローバル化等の後押しもありますが、相変わらず破竹の勢いで成長し続けている元気な企業が目立ちます。私たち DOWA グループも、時代の変化に対応し、遅れることなく事業構造改革Ⅲを推進していかなければなりません。



「児島湖周辺を河津桜の里に」



DOWA グループでは、当社工場が立地する岡山県の児島湖周辺で、地域の皆様とともに3,000本の河津桜を咲かせるための植樹・育成活動に取り組んでいます。

DOWA の果たす社会貢献

本業を通じて社会に貢献する企業として

吉川
元気な企業は同時に、企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）という点についても、積極的に取り組んでいる先進事例として目にすることが多いです。CSRと一言でいっても幅広い捉え方をされていますが、私は大きく2つあると思います。一つは、法令順守や、環境保全といった会社を取り巻く社会への責任。もう一つは、私達の企業活動によって影響を受ける株主、取引先、地域、行政、従業員といったステークホルダー（利害関係者）の方々への責任です。企業規模や地域が拡大すればするほど、それだけ社会的に影響を及ぼす範囲も広がるわけですから、当然ながら CSR という視点は、一層重要になってくると思います。DOWA グループも、今年度から従来の「環境報告書」を装い新たに「CSR 報告書」として、刊行することにしました。ここで改めて、DOWA にとっての CSR について、考えてみたいと思います。

河野
DOWA グループの大きな特徴は、私たちが力を入れている環境事業を中心とする循環型事業が社会に大きく貢献しているということです。DOWA グループは、世界でもトップレベルの16種類の金属を回収する製錬、工程スクラップや端材、使用済み製品等に含まれる有価金属をリサイクルし、有害物質は確実に無害化する環境・リサイクル、金属を加工して付加価値を高め、自動車や電気・電子機器をはじめとする様々な分野に素材を提供する電子材料・金属加工・熱処理の5つの事業を展開しています。世界的に金属資源の枯渇が深刻になりつつある昨今、これらの事業を通じて、自ら率先して国内・海外で使用済み製品等からの金属リサイクルを推進して、リサイクル原料の世界的な活用を促していく役割が、DOWA の社会的使命として今後一層求められてくると思います。120年以上も金属資源と向き合ってきた私たち DOWA だからこそ、世界中のあらゆる産業に不可欠な、限りある金属資源の有効利用を世界的に推進する旗振り役として、その存在感を広く社会に示していきたいと考えています。

地域貢献活動の展開

地域から国際社会へと成長する DOWA の環

吉川
そうですね、社会全体、そして世界において使命を果たしていくことも大変意義あることです。また、事業を進めていく上で、私たち DOWA グループに身近な地域の皆様との関係、すなわち地元根差した事業や地域貢献活動の展開も欠かせません。昨年度は秋田県小坂町の鉱山跡地で大規模な植林活動を展開しました。小坂町の生活ごみと地域の特産である桃豚を飼育する際に発生する豚糞で作った堆肥、そして DOWA の浄化土壌を活用して、約8,000本の苗木を植えました。今後も、さらに鉱山跡地の緑化を推進する計画です。また、今年度からは私どもの先達が大変な苦勞をして成し遂げた児島湾干拓事業の中心地、岡山市の児島湖周辺を桜回廊の名所にすべく、地元企業とタイアップした植樹事業がスタートいたします。かつて自社の鉱山周辺の植栽を枯らしてしまった苦い教訓を糧に、こうした過ちは二度と繰り返さないことを誓い、今後もこうした緑化活動をはじめとする地域貢献を是非とも積極的に進めたいと思っています。

河野
地域の理解や支援があってこそ成り立つのが、DOWA の循環型事業です。鉱山・製錬専門の時代に、地元の街づくりから着手した私たち DOWA グループにとって、地域がいかに大切か、という視点はこれからも引き続き、重要と考えています。“Think globally, Act globally and locally.”を心がけたいですね。

吉川
地域に根差した循環型事業を、グローバル・レベルで一層強化すること、例えば、小坂製錬や秋田製錬が、世界中のリサイクルネットワークと連携することで循環型事業が促進され、結果として地球全体への環境負荷を下げることに、DOWA グループ全体の利益向上にも繋がります。このような取り組みが、株主や取引先、地域、そして DOWA 社員といったあらゆるステークホルダーの方々が満足できる、DOWA の CSR が目指すべき方向へ続いていると信じています。

河野
「地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献する」という私たち DOWA グループの企業理念そのものですね。社内外の様々な声に真摯に耳を傾けながら、これからも循環型事業を力強く推進し、未踏の領域に挑戦し続けていきたいと思っています。

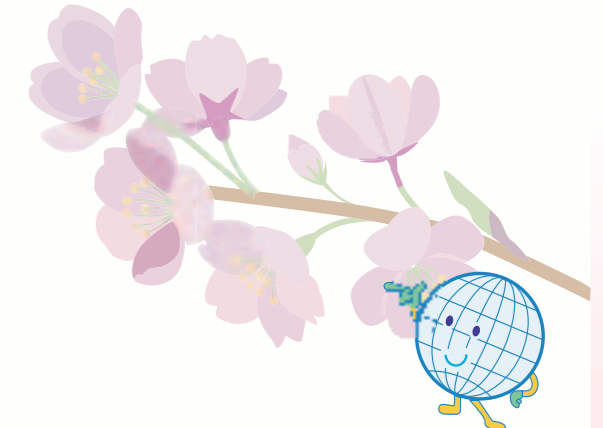
吉川
まずは、この「CSR 報告書」を一人でも多くの方々にお読みいただき、忌憚のないご意見、ご感想を頂戴しつつ、私たち DOWA グループの CSR に関する取り組みにご理解とご賛同を得ながら、一步一步着実に前進していきたいと考えています。

代表取締役会長・CEO

吉川 廣和

代表取締役社長

河野 正樹



DOWAって、こんな会社です。

DOWAグループ全体で、
循環型社会をサポートしています。



INDEX

ごあいさつ	01
目次	03
CSR 特集	
● DOWA の CSR	05
○ DOWA が実現する循環型社会	07
○ DOWA は地球を守ります。	09
● CSR ハイライト	11
○ 世界へ広がる DOWA のリサイクルネットワーク	11
○ 鉱山跡地などで本格的な森づくりにチャレンジ	13
○ DOWA 杯ジュニア・クロスカントリースキー 十和田湖大会	15
○ 化学物質に係る環境対話集会の開催	16
社会性パフォーマンス	
● 社会性報告	17
○ CSR トピックス	19
○ DOWA グループの人材育成	21
環境パフォーマンス	
● 環境報告	23
○ 環境管理体制	25
○ エネルギー	26
○ 地球温暖化対策	27
○ 廃棄物・リサイクル	28
経済的パフォーマンス	
● 経済性報告	29
○ 外部経済効果	31
○ 環境会計	32
事業の概要	
○ DOWA とは?	33
○ 環境・社会活動の歴史	37
○ 基本要件	38

いってらっしゃい!

おかえりなさい!

DOWA メタルマイン

金・銀・銅などの
金属資源の製錬を
行っています。

DOWA エレクトロニクス

プラズマディスプレイ
などに使う銀粉などを
作っています。

DOWA メタルテック

電気製品のコネクタ
などに使う高性能
合金を作っています。

DOWA サーモテック

車の部品を強くする
ための熱処理加工を
行っています。

DOWA エコシステム

廃棄物の処理、土壌浄化、
金属リサイクルを
行っています。

編集方針 にあたって

(1) 組織の変更
同和鉱業株式会社は、2006年10月1日持株会社制に移行し、「DOWAホールディングス株式会社」として新たなグループ経営体制をスタートいたしました。(詳細情報→P33)
本報告書では、対象期間途中の組織変更であること、環境報告書2006とのデータの連続性を重視し、2005年度と同様の組織体制で集計を行っています。
なお、各社・グループ子会社の名称は2006年10月1日以降の新社名を使用しています。

(2) CSR報告書への移行
当社グループは、2000年度より環境報告書を発行していましたが、2007年より社会的な内容を加え「CSR報告書」として発行することといたしました。
また、新たな取り組みとして、より多くの情報をわかりやすくお伝えするために、冊子版と詳細データを記載したWEB版(2007年9月予定)の2部構成で発行することといたしました。
本報告書では、DOWAグループの環境保全活動の全体像を分かりやすくするために、要点を絞って編集・報告しています。詳細な情報や事例などはWEBに掲載していますので、下記のマークがついた情報についてはWEBをご覧ください。

○ WEB版 CSR報告書(2007年9月末公開予定)
<http://www.dowa-csr.jp>

■対象組織

DOWAグループの直轄工場/事業所およびグループ会社の活動報告を基本に、一部の報告ではDOWAグループ全体、あるいはグループ会社の活動についても取り上げ、ご紹介しています。
※原則として、連結対象に従業員50名以上の事業所および会社を報告対象として選定しました。

■報告対象分野

上記報告対象組織の活動について、「経済」「社会」「環境保全」という3側面から、それぞれの実施状況・結果・今後の方針などを報告しています。

■対象とする読者

お客様、株主・投資家、お取引先様、地域、研究者、学生の皆様、社員など、および格付・評価機関、行政、NPO、DOWAグループの企業活動にかかわるすべてのステークホルダーの方々。

■対象期間

対象期間は、2006年4月1日から2007年3月31日までですが、一部に過去の経緯や発行時期までに行った活動についても記載しています。
※2006年度の活動を報告するにあたり、データを精査、これを修正した結果、昨年度の報告書と実績数値が異なっている項目があります。

■参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」
・Global Reporting Initiative「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」



ガイドライン対照表はWEBサイトに掲載しています。

■今後の方針/ご意見の募集ほか

巻末に、『CSRレポート2007』のアンケート葉書をご用意いたしました。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。